

児童虐待の対応について

岡崎児童相談所

所長 鈴木 義弘 氏



教育随想

幼い子供の痛ましい虐待死事件が新聞等でたびたび報道されています。虐待する親の多くは、「しつけのためだ。自分も親からこうして育てられた」「口で言っただけなら体で覚えさせるのは当然だ」などと言います。親の意に沿わない言動があれば虐待はさらにエスカレートします。

こうした親は社会的な孤立・不安定な就労・夫婦の不仲などの家族の問題や親としての未熟さ・幼児期の被虐待体験などの自らの問題を抱えております。これらに養育上の手詰まり感が加わるにより生ずるストレスのはけ口を最も弱い立場の子供に向けて行くのです。

虐待を受けた子供には情緒不安定・学習の遅れやクラスでの孤立・友達関係の悪化、あるいはいじめ・不登



平成14年3月1日

3月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想	1
岡崎児童相談所長 鈴木 義弘氏	
この人に聞く	2
竹内 昭子氏	
羅 針 盤	2
六ッ美北部小学校長 鈴木 正純	
ふれあい	3
山 中 小 小久井美香	
蒲 郡 中 澤田 憲正	
1年のあゆみ	4
平成13年度研究発表校	6
平成13年度教育論文入賞者	7
お知らせ	8
フォト・ヒストリー	10
第1回卒業式-卒業生見送り-	
(平成5年)	
この本を	10



校などさまざまな問題が生じます。親への対応は、こうした子供に与える影響を理解させ、間違った子供へのかかわり方を修正させることをねらいとします。家庭や親自身の問題、あるいは養育上の手詰まり感を共感的に受け留めながら、心に余裕を持ち、寛容な態度で子供にかかわることの出来るように相談援助を行うこととなります。

ケースによっては命にかかわる緊急の高い場合もあります。日ごろ

から「ひよつとしたら虐待かも知れない」という視点を持つことが重要になります。虐待を疑ったら、まずは学校内部で相談して、その上で児童相談所に連絡していただきたいと思えます。

児童相談所は子供の命と人権を守り、健やかな成長のために学校等関係者と一緒になって児童虐待の対応を図っていきます。

(すずき よしひろ)



夢を抱いて

プロボウラー

竹内 昭子 氏

昨年十二月、全日本女子プロボウリング選手権大会で二連覇された竹内さんに話を聞くことができた。この日、竹内さんは三重県の遠征を終えて戻ってきたばかりであった。

竹内さんは、八歳のころボウリング好きのご両親に連れられて初めてボールを投げたそうである。その日以来、何をするにもボウリングが心の中にあるという。

「ボウリングでオリンピック出場を目指していました。ところが大学三年生のとき、正式種目になる可能

性の低いことがわかり、プロのテストを受けたのです。」

プロになるには、一次テスト、二次テストがあり、それぞれ四日間、計九十六ゲームを投げ、通算アベレージ一八五点以上をとらなければならぬ。このテストで一位合格を果たし、この年のシード権を得られた。プロになってからの悩みをお聞きした。

「プロになる前は受かることしか考えてなかったのですが、何も苦になることはありませんでした。ところがプロになると、マスコミからも注目され、それ以来、人の目がとても気になるようになりました。自分一人でメンタルトレーニングもしましたが、あまり効果がありませんでした。そんな時、先輩プロや先生、同僚、両親から様々なアドバイスをいただきました。そのおかげで初めて賞金



が取れた時、今までの悩みが吹っ切れたような気がします。」

将来の夢を尋ねたところ、竹内さんは力強く次のように答えられた。「将来は、日本ランキング一位になることです。今年、四月からアメリカのツアーにも挑戦し、日本だけではなく、海外でも通用するようなプロになりたいのです。また、子供たちにもボウリングの楽しさやおもしろさを感じてもらいたいと思います。」

現在、愛知教育大学に在籍の竹内さん。大門小学校で教育実習の経験もある。生活科の授業でベットボットを利用して、ボウリングのゲームを行ったそうである。

「好きなことはとことん極めるよう努力してほしい。常に心の中に夢を抱いて頑張れば、自分自身を大きく成長させることができます。私も小さいころからボウリングが好きでそうしてきたのですから。」

子供たちへのメッセージを、熱く話される竹内さんの顔は、輝いていた。

氏名 たけうち あきこ
生年月日 昭和五十二年五月十日
住所 上佐々木町西勝十八

読書は人生の糧

六ツ美北部小学校長

鈴木 正純

読書は、人格形成の基礎となる。自己の生甲斐を、先人の足跡から学び取ることもできるからである。正に「読書は人生の糧」と言える。

本校には低・高学年用の二つの図書室がある。フェルト張り低学年図書室には、二百セット余の紙芝居を常備しており、長放課や給食後放課の来室が盛んである。高学年図書室には学習室を併置し、授業中一人調べでの活用を図っている。校長室には、動植物図鑑、推薦図書を置き、時々読み聞かせや紙芝居をしている。また、あおい号の図書は、学級図書として読書タイムで利用している。「玉磨かざれば光なし」潜在能力から萌える芽を、期待して止まない。

飛躍するが、三年前に学校新聞のアンケート「今まで読んだ本の中であなたの好きな本は何ですか」に、本校



たんぽぽの綿毛

山中小 小久井美香

かつて、友達のことでも悩んでいたころのA子は、前髪の隙間から周りをうかがうようにしていた。

ある日の朝の会で、言葉について話題になったとき、A子が、

「私ね、B子ちゃんに、『ボールのカットにむいているから、守れる方にまわってね』って言われたんだ。わたしの得意なものを考えた作戦だつて分かったよ。B子ちゃんに言われたときは、すごくうれしかったなあ」と発言したのだ。

ともすると友達の見聞を聞き流しがちなのに、A子はB子の言葉を大切に受け止めていたのだ。しかも、日ごろ物静かなA子が、堂々とみんなの前で意見を述べたので、クラス



の仲間が息を呑んだ。「B子」を認められるA子もえらいね」わたしの言葉に、クラスの仲間も大きく

うなずいた。

しばらくして、こんなA子は詩を書いた。「たんぽぽから巣立つて綿毛が長い旅に出た／ふんわりふわふわゆつくりと／わたしも綿毛になりたいな／チョウチョが言いますひらと／こつちに曲がつていきましよう／いいえわたしは綿毛です／まっすぐいきます／決めた道をまっすぐいきましよう（略）」

A子は、自分自身の力で、長い心の旅に出られたのかも知れない。



A子の笑顔

蒲郡市立蒲郡中学校 澤田 憲正

「先生、ハム太郎の衣装がやっつできました。試着してください。」

A子がクリーム色の衣装とお面に私に差し出した。A子の文化祭での役割は、創作劇衣装部長である。いつも控え目で目立たないA子の創作劇にかける意気込みが感じられる。

本校では一人一役を合言葉に、生徒全員が主体的・創造的に取り組む

文化祭を目指している。今年も九つ

の実行委員会が組織され、それぞれが「幸せ」をテーマに活動を始めた。創作劇実行委員は総勢七十四人。役者・大道具・小道具・音響・衣装・照明の六部局に分かれ、A子は衣装部の部長を務めることになった。衣装部の仲間と制作に追われるA子。A子の熱意で被服室での作業が連日夕暮まで続いた。次々と完成していく中で、最後に残ったのは「ハム太郎」の衣装。ハムスターをうまく表現するためにどのような衣装を工夫したらよいか。A子は悩みながらも、文化祭前日までに仕上げた。劇顧問の私が、この衣装を着て出演する。

「へけ、ぼくがハム太郎なのだ。」大爆笑の中、舞台から降りる私を笑顔で迎えてくれるA子の姿があった。



五・六年児童と保護者は第一位に、乙武洋匡著「五体不満足」を選んだ。主たる理由は、著者が障害を単なる「身体的特徴」とし、バリアフリーを唱えて全国行脚をしたことへの共感であった。本の後書きに、ヘレン・ケラーの言葉「障害は不便である。しかし、不幸ではない」が添えられている。著者の強い意志と心構えを代弁する一節に違いない。

私自身は、同女史の別の言葉に思い入れがある。それは、「希望は、人を成功させる信仰である」である。四十年前、県立岡崎盲学校長の依頼で製作し、現存する「白杖供養塔」に刻み込んだ文字だからである。

最近では、マザー・テレサの言葉、「何をするかはさほど重要でない。小さなことを大きな愛でするのだ」を、勝手に自らへの至言にしている。「師は朱書きに言葉を添えて語る人であり、教育愛を言葉と態度にできる人である」と信ずるからである。

「読書百遍義自ら見る」と言うが、幼児期、母親が寝床で繰り返し語った物語は鮮明であるように、愛ある人の話は心の奥に残る。子供を愛するならば、眼の前の子供に静かに読書する姿を見せ、読書から得た人生訓を、熱っぽく語る教師でありたい。

一年の あゆみ



▶全日本女子ソフトボール大会で活躍する城北中河内雅美さん



▶全日本合唱コンクールで金賞受賞の六ツ美北中合唱部

3・30	小中学校における基本的教科の少人数指導ができる定数改善を定めた「公立義務教育諸学校の学級編成及び教職員定数の標準に関する法律等の一部を改正する法律」が成立 新規採用教員62名辞令伝達式 児童育成センター開設（北野・城南・竜美丘・緑丘）	4・2	第8回愛知県ヴォーカルアンサンブルコンテスト 金賞 六北中	4・15	現職教育委員会総会（連尺小・城北中）	4・22	中部日本ソロ・重奏コンテスト東海大会 フルート独奏 優秀賞 竜海中 金管八重奏 優秀賞 竜海中	4・28	城北学区児童生徒健全育成協議会発足 松下視聴覚教育研究賞 理事長賞 城北中	5・11	第45回岡崎市中学校総合体育大会 竜南学区ネットワーク推進協議会発足	5・13	第38回愛知県中学生女子ソフトボール大会 優勝 城北中 大阪教育大学附属池田小学校で発生した児童殺傷事件を受け、学校の安全管理体制の再点検を指示する文部科学大臣の談話を発表	5・20	岡崎市中生呼称特市友好親善訪問（26） 教育委員会の活性化、指導の不適切な教員へのより適切な対応を定めた「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」、学校における様々の体験活動の充実、いじめや授業妨害等問題行動への適切な対応を定めた「学校教育の一部を改正する法律」、家庭教育支援の充実を定めた「社会教育法の一部を改正する法律」が成立	6・8	第23回愛知県中学生相撲大会 優勝 美川中 ペシニック第21回全日本バレーボール小学生大会愛知県大会	6・18	男子優勝 矢北小 女子優勝 六南小 ふれあいネットワーク矢北中発足	7・5	第16回中学生の主張コンクール（せきれいホール） 第18回愛知県小学生リレー競争大会 4年男子50M 優勝 大樹寺小4年 榊原康政 北中教育ネットワーク発足	7・6	第54回岡崎市中学校市長杯総合体育大会（22） 岡崎市小学校球技大会（26） 平成13年度西三河中学校選手権大会（28） 第28回岡崎市民大学講座（市民会館） 全国中学生カヌー大会	7・8	第2位 新香山中3年 阿部 友輔 第3位 新香山中3年 坂田 啓輔 新香山中3年 斉藤 礼未	7・16	第55回愛知県中学校総合体育大会（8・3） 陸上男子 走高跳び 優勝 矢作中 女子 100M 優勝 矢作中 水泳男子 100M背泳 優勝 矢作中 愛知県中学校相撲選手権大会 総合優勝 美川中 個人優勝 甲山中3年 河内 洋平	7・23	第39回岡崎市小学校水泳大会（井田小・三島小） 夏季美技講習会開始（8・2） 第55回愛知県中学校総合体育大会 バレーボール男子 優勝 矢北中 女子 優勝 矢北中	7・25		7・28		7・29		8・1							
8・2	感性を育む心の教育の推進 芸術鑑賞会（市民会館） 第21回全国アーチェリー大会 優勝 東海中2年 鈴木徳由毅 2年 大坪 拓也	8・5	第18回NHK杯全国中学校放送コンテスト愛知県大会 テレビ番組部門 最優秀賞 東海中	8・6	第23回東海中学校総合体育大会（11） バレーボール男子 第3位 矢作中 バスケットボール男子 第3位 矢作中 水泳男子 100M背泳 優勝 矢作中3年 佐々木 学 400Mドレーリレー 準優勝 矢作中 佐々木・澤田・辻森・神谷・上垣・山本	8・9	陸上男子 走高跳び 第3位 矢作中3年 福代 直希 中学校相撲選手権大会東海大会 総合優勝 美川中 個人第3位 甲山中3年 河内 洋平	8・13	第31回愛知県野生生物保護実績発表大会 愛知県知事賞 美合小・東海中	8・14	第1回全日本中学生女子ソフトボール選手権大会 第4位 城北中 平成13年度全国中学校体育大会（25） 水泳男子 200M背泳 準優勝 矢作中3年 佐々木 学 100M背泳 第3位 矢作中3年 佐々木 学	8・16	第41回愛知県合唱コンクール 同合唱部の部 金賞 六北中 全日本中学校バレーボール選手権大会男子 第3位 矢北中	8・20	第69回NHK全国学校音楽コンクール 合唱部の部 金賞 矢南小 岡崎市統計グラフコンクール表彰式（福祉会館） 第29回岡崎のハーモニ（市民会館） 第3回文化のつどい（市民会館） 文部科学省「不登校に関する実態調査―平成5年度不登校生徒追跡調査報告書」を公表	8・24	愛知県ジュニアオリンピック陸上競技大会 男子800M 優勝 岩津中3年 丸尾 裕矢	8・29	第51次教育研究岡崎集会（竜南中・上地小） 第54回中部合唱コンクール 中学生同声部門 金賞 六北中 第38回吹奏楽祭（市民会館） 第45回愛知県統計グラフコンクール 金賞 羽根小・矢作東小・連尺小・竜美丘小・竜海中・城北中	8・31	第40回岡崎市小学校陸上大会（県岡崎総合運動場） 岡崎市中生三ノ上ポーター市親善訪問（12） 第33回岡崎市中学校新人総合体育大会（13・水泳9・2） 第48回理科作品展（中央総合公園武道場） 第28回技術・家庭科作品展（中央総合公園武道場） 第48回岡崎市民体育祭（中央総合公園） 中部日本吹奏楽コンクール本大会 小編成の部 準優勝 岩津中	9・7	第36回CBCこども音楽コンクール県大会（14） 合奏の部 最優秀賞 岩津中 重奏の部 最優秀賞 岩津中	9・9	第49回統計グラフ全国コンクール	9・13		9・23		9・28		10・3		10・6		10・7		10・8		10・13		10・15	

▶増改築された城南小の特別教室棟



▶韓国の新都中からの訪問団を迎える矢作北中生徒会



12・17	12・14	12・13	12・12	12・5	12・1	11・30	11・27	11・25	11・19	11・15	11・11	11・10	11・7	11・6	11・3	10・31	10・28	10・27	10・26	10・25	10・24	10・20	10・19	
第34回手紙作文コンクール 郵政事業庁長官賞 緑丘小6年 小山田真之	平成13年度学校体育賞授賞式(中央総合公園武道場)	ソニー子ども科学教育プログラム 入選プロジェクト校 大樹寺小・緑丘小	韓国訪問団(新都中) 来校(14) 矢北中	等々を定めた「子どもの読書活動の推進に関する法律」が成立	子供の読書活動の推進に関し国・地方公共団体の役割や子供読書の日(4月23日)等を定めた「子どもの読書活動の推進に関する法律」が成立	叙勲表彰者合同祝賀会(竜美丘会館)	文化芸術の振興を図る基本方針や施策を定めた「文化芸術振興基本法」が成立	竜海中学校児童生徒健全育成協議会発足	秋のF・B・C学校花壇設計図コンクール 愛知県知事賞 六中小	夢が語り合える学校づくり推進事業 県教育長視察 矢北中	第25回全国育樹祭併催行事全国大会緑の少年団活動発表大会 みどりの奨励賞 連尺みどりの少年団	第29回教育文化賞授賞式(せきさいホール) 博報賞 文部科学大臣奨励賞 矢北小	常東小創立100周年記念式典 城北中創立40周年記念式典	合唱の部 最優秀賞 六北中 管楽合奏の部 最優秀賞 岩津中 サキソフォン四重奏 最優秀賞 岩津中 合唱の部 優秀賞 矢南小	城北中創立40周年記念式典 常東小創立100周年記念式典	博報賞 文部科学大臣奨励賞 矢北小	第29回教育文化賞授賞式(せきさいホール)	第25回全国育樹祭併催行事全国大会緑の少年団活動発表大会 みどりの奨励賞 連尺みどりの少年団	夢が語り合える学校づくり推進事業 県教育長視察 矢北中	秋のF・B・C学校花壇設計図コンクール 愛知県知事賞 六中小	竜海中学校児童生徒健全育成協議会発足	文化芸術の振興を図る基本方針や施策を定めた「文化芸術振興基本法」が成立	叙勲表彰者合同祝賀会(竜美丘会館)	子供の読書活動の推進に関し国・地方公共団体の役割や子供読書の日(4月23日)等を定めた「子どもの読書活動の推進に関する法律」が成立

▶中学校相撲選手権東海大会で総合優勝した美川中相撲部



▶博報賞文部科学大臣賞受賞の矢作北小雅楽部



3・25	3・24	3・16	3・8	2・25	2・23	2・22	2・15	2・13	2・12	2・6	2・2	1・20	1・17	1・16	12・28	12・25	
ブルー完工 大樹寺小	韓国(新都中)訪問 矢北中	耐震工事完工 矢作南小・六ツ美南小・小豆坂小	園舎増改築完工式 広幡幼	美合小・緑丘小・竜美丘小・竜谷小・生平小・細川小・矢作東小	矢作南小・六ツ美南小・小豆坂小	全国児童才能開発コンテスト 文部科学大臣賞 緑丘小6年 粟生 智香	平成13年度視聴覚教育賞授賞式(情報ネットワークセンター)	全国児童才能開発コンテスト 文部科学大臣賞 緑丘小6年 粟生 智香	特別教室棟校舎完工式(城南小)	第37回読書感想文・感想画コンクール表彰式(福祉会館)	南中学校区児童生徒健全育成協議会発足	美川学区児童生徒健全育成協議会発足	第53回岡崎市民駅伝競走大会	第12回学校文化賞授賞式(甲山会館)	第53回岡崎市民駅伝競走大会	東海郵政局長賞 緑丘小1年 三浦奈津子	第28回冬季研修会(25・甲山会館)

平成13年度研究発表校

月日	校名	分野	研究主題	研究概要	研究資料
6月1日	矢東小	国語	確かで豊かな音声言語表現力を伸ばす指導	国語科「話す・聞く」を中核とした4段階の学習ステップを踏んで授業実践する。自然や歴史の豊かな地域を素材とした学級テーマ活動や、教科の学習、日常生活においても音声言語表現力を生かし伸ばすことを試みる。	研究物 研究紀要－理論編－ 研究紀要－実践編－ 学習指導案 講師 奈良教育大学教授 松川 利広 先生
6月15日	竜海中	教科指導	自ら追究し、自己向上をめざす生徒の育成 －教科学習を中心に－	「自己向上」をテーマに進めてきた第7次研究の実践まとめの年として、生きる力の育成や実生活に応用・発展できる学びの充実など、生徒の総合的な力の向上を培うことをめざした。	研究物 研究紀要 学習指導案 助言者 市内各教科指導員
6月22日	六中小 六中	教育全般	異年齢交流ではぐくむ豊かな心 －小中学校の連携教育をとおして－	平成11年度に岡崎市教育委員会より研究委嘱を受けた。両校では、児童・生徒の交流活動を中心とした、さまざまな異年齢交流活動を展開することにより、心豊かな子供の育成が図れるという研究仮説に基づき、3年間にわたり研究実践を重ねてきた。	研究物 研究紀要Ⅰ概要編 研究紀要Ⅱ実践編 学習指導案 講師 NHK「中学生日記」ディレクター 大久保晋作 氏
9月28日	矢西小	生活科・総合的な学習	自然や人に進んでかかわっていく感性豊かな子の育成 －みどりチャレンジタイムをとおして－	自然と人、人と人にかかわる体験活動をとおして、学ぶ力・生きる力の育成を目指し、総合的な学習を「みどりチャレンジタイム」と名付け、3つの場（みどり単元学習・みのりの活動・ふれあい活動）を設けて実践を積み重ねてきた。	研究物 研究紀要 学習指導案 ネタ・ヒント集 講師 教材・授業開発研究所代表 元愛知教育大学教授 有田 和正 先生
10月30日	藤川小	教育全般	自ら問いを追究する子の育成 －パソコンを中心としたメディアの活用を通して－	子供たちの問いや願い（課題）に対して学ぶ道筋をつくり、解決する充足感を感じさせることが「生きる力」を育むことと捉えた。その活動を支える手だてとして、パソコンを中心としたメディアの特性（資料の豊富さ、即時性、多彩な表現方法など）に着目し、計画的で無理のない活用の研究実践を行ってきた。	研究物 研究紀要 学習指導案 パソコン活用ハンドブック 講師 名古屋大学大学院教授 大谷 尚 先生
11月9日	新香山中	教育全般	互いのよさを認め合い、進んで実践する生徒の育成 －関わり合い、認め合い、分かり合う－	平成12・13年度にわたって、県教育委員会から委嘱され、人権教育の研究に取り組んだ。各教科領域および総合的な学習の時間（ササユリタイム）や、生徒会活動（つたの葉活動）における、生徒の主体性・共感・創造性を高め、生きる力を育てる実践を行った。	研究物 研究紀要 学習指導案 実践CD-ROM

●平成13年度の出版物

書名	出版日	著者
ふるさと自然散歩	平成13年11月10日	奥殿小
道在迹（みちちかくにあり）	平成14年3月	常磐中
六斗目川の浄化活動	平成14年3月15日	緑丘小学校 松井幸彦

平成13年度教育研究論文入賞者

●個人研究の部

最優秀賞

氏名	学校名	教科領域	研究主題
渋谷 昌彦	常磐	算数	自ら学び自ら考える力を育てる算数の授業
坂元 千城	南	社会	意欲的な追究から歴史認識を深める生徒の育成

〈論文入賞者数〉

賞	個人	共同	最優秀	優秀	佳作
			1	24	49
小学校	1	3	6		
	1	17	35		
中学校	1	6	10		
	4	50	100		

優秀賞

近藤志つ代	竜美丘	国語	「伝え合う力」を育てる国語科授業を目指して
大西 裕子	矢作東	国語	確かで豊かな音声言語表現力を伸ばす指導
寄田加津子	井田	書写	文字を正しく整えて書き、書写の能力を生活に役立てられる子の育成
川本 祐二	小豆坂	社会	共感の味あえる歴史授業
片桐 徹	北野	社会	自分の問題を進んで調べ、自分の考えをもとにかかわり合い問題解決する子供の育成
高嶽 利行	竜美丘	算数	数量や図形の感覚を豊かにし、算数のよさに気づかせる授業の創造
多田 一孝	上地	算数	自ら課題をつくり主体的に学ぶ子供の育成
福田 忠大	竜美丘	理科	主体的に追究し、新しい見方や考え方を育む理科授業
太田奈緒子	矢作北	理科	総合的な学びを育む理科授業
清水 範彦	六中部	理科	自然の不思議さに感動し、意欲的に追究する子の育成
林 尚子	生活	生活	活動を広げ、気づきを深めていく生活科の学習
杉浦久美子	矢作南	生活	人とかかわりながら、のびのび生活できる子の育成
柴田 知子	矢作西	音楽	声を合わせるおもしろさから、響きを感じて二部合唱をする子の育成
太田 悦子	藤川	保健体育	追究意欲をもち続け、自己を高めようと努力できる子の育成
村平 美江	福岡	道徳	友達の心に思いを寄せ、自己肯定感を高め合える子の育成を目指して
長谷川雄一	岡崎	特別活動	自発的实践に支えられた児童会活動
吉田 靖子	羽幡	特別活動	より健康的な生活リズムを作る子供の育成
鈴木かをる	道徳	道徳	成長を肯定的に受け止め、より良い生活のしかたを身につける子の育成
原田 康成	梅園	総合	事実に基づいて自分なりの判断ができる子供たちの育成
森下 恒夫	美合	総合	自ら考えを持ち、たくましく生きる子の育成
本間 茂夫	山中	総合	自ら学び、心豊かに生きる子
中立 香	本宿	総合	児童の思いや願いに根ざし、体験活動を重視した総合的な学習の展開
堺 正司	六西部	総合	自らの課題を意欲的に追究する子供の育成
大橋喜代美	六西部	総合	自らを高め、創り出す学習の創造
神谷あけみ	河合	国語	「能動的に聞き、根拠を持って話し」することで、新たな思考を創造しようとする生徒」の育成をめざして
野々山宏司	岩津	国語	言葉にこだわる生徒の育成
竹平 真仁	葵	社会	学ぶ喜びをわかち合い、共生のあり方を問う社会科の授業
早川 哲也	六ッ美	社会	学ぶ楽しさをわかち合い、共生のあり方を問う社会科の授業
高橋 幸太	竜南	数学	追究意欲を高める数学の授業
林 幸康	美川	理科	個の思考の深まり
山本 則夫	北	理科	身近な現象に目を向け、ねばり強く疑問を追究する生徒の育成
岩月 茂仁	美川	保健体育	豊かなスポーツライフへの自立をめざした体育学習
市川 陽明	岩津	保健体育	楽しい体力づくり
板倉 眞介	北	保健体育	「運動への自立の姿勢」を培う体育学習
山田 義仁	葵	技術・家庭	人とのつながりを探るものづくり指導
浅野 博志	六ッ美北	技術・家庭	環境に目を向け、主体的に学ぶ生徒の育成
福留 貴子	六ッ美	英語	積極的に他と関わろうとする生徒の育成
伊藤 幸雄	新香山	道徳	命の大切さを育む道徳総合学習
岡田 幸夫	六ッ美	特殊教育	人とのかかわりの広がり求めて
土田 修義	美川	学校保健	喫煙防止教育の試行
廣田 あい	六ッ美	総合	「豊かな心」を育む小中交流活動

佳作

千賀しのぶ	六名	国語	
前寺 優子	連尺	国語	
萩原 高代	連尺	国語	
森下 成樹	矢作南	国語	
小林 真美	六西部	国語	
吉原 樹	連尺	社会	
石田佳奈子	矢作南	社会	
真木 芳衛	六名	算数	
松下 恵	矢作東	算数	
加藤 良彦	矢作東	算数	
加藤 嘉一	六南部	算数	
吾妻 利彦	矢作南	理科	
川端 啓介	上地	理科	
尾崎貴美子	細川	生活	
山本 佳美	矢作西	生活	
河上 咲子	城南	生活	
黒川 麻紀	梅園	音楽	
天野 朝代	藤川	音楽	
鈴木慎一朗	本宿	音楽	
伊藤 聡子	矢作東	音楽	
石川 洋実	六西部	音楽	
高梨 恵梨	梅園	図工	
佐久間裕子	三鳥	図工	
大島 裕子	福岡	保健体育	
高山 美保	大樹寺	保健体育	
矢田 和成	六南部	保健体育	
鈴木のり子	男川	家庭	
野本亜香根	羽根	家庭	
鷹見 京子	矢作東	家庭	
嘉森 環	六北部	道徳	
香名 治美	緑丘	特殊教育	
山本 純子	矢作東	特殊教育	
島田 繁直	竜美丘	学習情報	
柴田淳一郎	六南部	学習情報	
廣瀬 浩司	根石	図書館	
大内 愛子	矢作東	学校保健	
宮地久美子	梅園	総合	
北原理恵子	広幡	総合	
鶴田 秀幸	藤川	総合	
上原 健次	生平	総合	
川崎志保子	常磐東	総合	
加藤 俊明	奥殿	総合	
三浦 裕昌	大門	総合	
三上美佐子	矢作東	総合	
神谷 耕一	矢作北	総合	
畑 小普	矢作西	総合	
谷川 光代	六南部	総合	
佐々木八津子	梅園	教育全般	
安部 朋彦	六中部	教育全般	
丹羽 郁人	甲山	国語	
磯村 彰久	葵	国語	
河合由起子	城北	国語	
野口百合子	東海	国語	
日置 正敏	福岡	社会	
林 正彦	美川	数学	
深澤 伸夫	葵	数学	
田澤 弘	河合	数学	
加藤 政幸	北	数学	
服部 竜哉	東海	理科	
鈴木 武	矢作南	理科	
柴田 貴子	甲山	音楽	
内田 正信	竜海	音楽	
高木 理人	葵	美術	
青木 貴之	六ッ美	美術	
早川 周宏	六ッ美北	美術	
畔柳 朋典	常磐	保健体育	
井上 義規	矢作北	保健体育	
近藤 康雄	甲山	技術・家庭	
渡辺 幸枝	城北	技術・家庭	
中野 健	矢作北	技術・家庭	
沢田 聖子	福岡	英語	
岩城 冬子	河合	英語	
大野 幸代	岩津	英語	
村田亜矢子	北	英語	
高田 典子	六ッ美北	英語	
原田 平	矢作	道徳	
熊谷 精一	城北	道徳	
清水 隆史	河合	特別活動	
峰須賀靖幸	葵	特殊教育	
佐渡 英彰	竜海	学習情報	
澤入 弘美	東海	学習情報	
浅井 圭子	甲山	図書館	
小川 有理	竜南	学級経営	
近藤 善紀	竜南	総合	

●共同研究の部

最優秀賞

1年生部会 倉地 耕治	連尺	生活	気づきを深め、自ら学ぶ力を育てる生活科の授業
体育部 香川 恵美	矢作北	保健体育	生涯スポーツの自立をめざしてⅡ

優秀賞

現職教育部 太田 恭子	矢作東	国語	確かで豊かな音声言語表現力を伸ばす指導
現職教育部 鈴木 純子	緑丘	総合	生きる力を育てるみどりの環境教育
6年部会 成田 隆行	三鳥	総合	豊かに感じ 自ら考えを深める子の育成Ⅱ
理科部 寺澤 益美	竜海	理科	自ら自然にはたらきかけ、将来の自然の姿を創造する授業
特別活動部 伊奈 良見	甲山	特別活動	自主性を育てる生徒会活動
特殊教育部 武田 正道	竜海	特殊教育	人とかかわる力を高める授業
現職教育研究推進部 森 竜師	城北	学習情報	自ら学び主体的に生きる生徒の育成
現職教育部 都筑 祐一	美川	生徒指導	よりよい生徒指導を求めて
現職教育部 荻須 文裕	東海	教育全般	自らの良さを自覚できる生徒を目指して

佳作

2年生部会 前川あゆみ	六南部	生活	
現職教育部 山田真寿美	六名	特別活動	
現職教育保健部 三木世紫枝	六名	学校保健	
現職教育部 野村都久男	矢作西	総合	
6年生部会 内田 憲郎	六南部	総合	
現職教育部 坂本 英二	六西部	教育全般	
国語部 手島 英樹	竜海	国語	
社会科部 石原 真吾	竜海	社会	
数学部 坂田 裕史	竜海	数学	
保健体育部 岩間 謙二	竜南	保健体育	
保健体育部 岡村 直美	竜海	保健体育	
体育部 柴田多津彦	新香山	保健体育	
現職教育情報発信部 森 竜師	城北	学習情報	
現職教育1年部会 山口 直純	福岡	総合	
現職教育部 竹内 文子	河合	総合	
研究推進部 荻野 卓寛	竜海	教育全般	

お知らせ

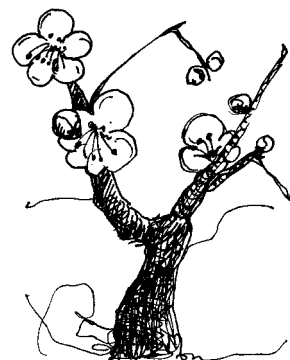
● 教育最新情報

○ 行事部活動の見直し

来年度から始まる、学校完全週五日制と新学習指導要領の実施に向けて、教育現場ではこれまで行われてきた全ての教育活動の、抜本的な見直しが急務とされている。

行事・部活動においても、子供たちの心身のゆとりと家庭・地域の人々とのふれあいを深める活動を大切にする、学校週五日制の趣旨を踏まえつつ、新しい時代の教育に適応する在り方を研究することが求められている。

そこで、行事・部活動研究委員会では、今年度、本市の全市的行事と部活動について学校現場の声やそれぞれの行事を担当する現職教育部会へ



調査を実施し、今後の全市的な行事・部活動の在り方の研究を行った。

本市の状況調査を実施するとともに、近隣の市町村の状況や、国や愛知県の方針も加味しながら検討を進めた。関係機関とも連携を深め、来年度からの全市的行事・部活動における基本方針を次のようにまとめた。

◇ 全市的行事について

● 全市的行事については、土曜日に開催することを基本とする。ただし、保護者の参加が多く、学校完全週五日制の趣旨に沿うような全市的行事（理科作品展、技・家作品展、おかざきっ子展、岡崎のハーモニーなど）についてはその限りではない。



▲ 小学校球技大会

● すでに、来年度平日での開催を予定している行事については、可能な限り夏季休業中に開催する方向で見直しを図りたい。

● 会の規模を縮小したり、内容を精選したりしてほしいという意見が多い、「おかざきっ子展」「理科作品展」「技・家作品展」「小学校陸上大会」については、例えば、隔年開催やブロックごとの開催にするなど、新しい方向での検討を加えたい。

● 各種コンクールなどで、同時開催が可能なものについては、各現職教育部間の調整を図り、開催期日を減

らす方向で検討を進めたい。
● なお、学校行事については学校完全週五日制の趣旨が十分生かされるよう配慮しながら、学校や地域の実情と合わせて開催期日を決定するようにしたい。

◇ 部活動について

● 日曜日は実施しない。ただし、大会間近で活動が必須な場合は、校長の許可を得るとともに、家庭との連絡を密にして計画的に活動する。

● 土曜日の活動については、校長の許可を得て実施してもよい。

● 授業後の部活動は、週一回の休養日を設ける。

● 岡崎市教育委員会が開催する各種大会は土曜日開催とする。ただし、夏季休業中の大会においてはこの限りではない。

これらの基本方針に沿って、学校や現職教育部で今後検討を加え、全市的行事・部活動が、一層子供の生きる力をはぐくむ場となるよう改善を図っていききたい。

● 少年自然の家だより

○ 「もちつきと伝承遊び」の集い



十二月八・九日、小学四～六年生を対象に「もちつきと伝承遊び」の集いを行い、参加した四十八名が、リース作り、もちつき、こま回しや竹馬などで楽しんだ。子供たちの人気が高かったのは、木の輪切りで作ったびゅんびゅんごまで、色をぬったり種細工を付けたたり、回し方の工夫をしたりして楽しんでいた。参加者は初対面同士の班編成なのに、みんな仲良く消灯時間を守り、食事の残滓もなかった。三年間連続で参加した子も多くいた。来年度も楽しい企画を考えていきたい。

●表彰

◆第三十七回岡崎市小中学校

読書感想文・感想画コンクール
市長賞〈読書感想文〉

附属小二年 築瀬真理子
六南小五年 岩野みどり
竜海中一年 中根 洋美
市議会議長賞〈読書感想文〉

根石小一年 杉浦 萌美
岡崎小五年 伊藤 喜紀
矢北中一年 畔柳 美里
岡崎南ライオンズクラブ会長賞
〈読書感想画〉

緑丘小二年 前 詩苑
藤川小四年 達川 博史
新香山中三年 中川 桜子
◆県読書感想画コンクール
優秀賞

藤川小三年 石井 星光



◆平成十三年度防火作品

市長賞

◆ポスターの部

岩津小五年 村松 賢
生平小六年 鶴田 奈巳
矢北中二年 平嶋 麻貴

◆習字の部

大門小五年 稲田 実央
六北小六年 柴田 真実
六ツ美中二年 加藤 倫子

◆第二十九回人権を理解する

作品コンクール
優秀賞〈ポスターの部〉

三島小一年 伊豫田 健
新香山中二年 河野 秀彰
最優秀賞〈書道の部〉

◆平成十三年度CBCこども

音楽コンクール
〈中部日本決勝大会〉

◆重奏部門

最優秀賞 サックス四重奏
優秀賞 弦楽九重奏
城北中学校

◆管楽合奏部門

最優秀賞 岩津中学校
優秀賞 竜美丘小学校

◆TBS全国大会

◆中学校合唱部門

文部科学大臣奨励賞

六ツ美北中学校

◆県アンサンブルコンテスト

〈中学校の部〉
金賞 竜海 中学校

◆平成十三年度全国緑の少年団

活動発表大会
みどりの奨励賞
連尺みどりの少年団

◆第四十六回県自作視聴覚教材

コンクール
最優秀賞〈ビデオ部門〉

「蘇れ！奇跡の湿地―北山湿地を守る」
自作教材制作委員会E班・AVL
優秀賞〈ビデオ部門〉

◆「ある食品工場の挑戦」

自作教材制作委員会B班・AVL
最優秀賞
〈マルチメディア教材部門〉

「マルチメディア資料『おかざき』」

◆第二十一回新春乙川マラソン大会

（優勝のみ）

◆小学校男子
広幡小五年 長谷 翼
藤川小六年 藤井 延幸

◆小学校女子
緑丘小六年 小林 美紀

◆中学校男子
矢作中一年 鈴木 慶輝

北 中二年 藤田 翔
岩津中三年 丸尾 祐矢
六ツ美中一年 竹本 紗代
東海中二年 足立依實子
東海中三年 山田 共未
五区 竜海中 松丸 英司
六区 東海中 林 謙太郎
七区 竜南中 西村 允考
八区 竜海中 奥田 拓也
九区 竜海中 長谷川 亮

◆第五十三回岡崎市民駅伝競走大会

男子の部
優勝 竜海中学校A
二位 六ツ美中学校A
三位 六ツ美中学校A
四位 城北中学校A
五位 南中学校A
六位 北中学校A

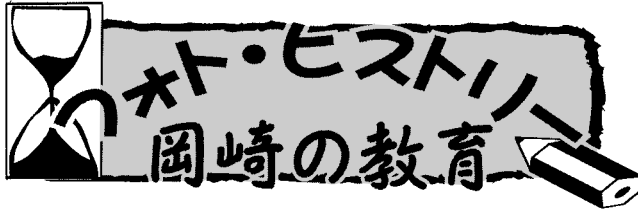
女子の部
優勝 東海中学校A
二位 六ツ美中学校A
三位 六ツ美中学校A
四位 城北中学校A
五位 南中学校A
六位 北中学校A

〈区間賞〉
一区 岩津中 篠塚 鎮記
二区 竜海中 長谷川純也
三区 竜海中 田中 正俊
四区 新香山中 岡原 悠貴
一区 東海中 足立依實子
二区 甲山中 鬼頭 静香
三区 矢北中 森園 春菜
四区 東海中 山田 共未
五区 東海中 鈴木 友



▲第53回岡崎市民駅伝競走大会（1月20日）

・カ
ツ
ト
北
中
杉
江
ゆ
かり



第1回卒業式

—卒業生見送り—

(平成5年)



写真提供 六ツ美北中学校

平成四年四月、過大校解消のため、六ツ美中学校から分離して、市内十八番目の中学校、六ツ美北中学校が誕生した。写真は、平成五年三月、第一回卒業式の卒業生見送りの様子である。六ツ美中学校制服の詰め襟・セーラー服を着た卒業生を、六ツ美北中学校制服の紺色ブレザーを着た在校生が見送った。

卒業生の門出を祝い、これからの活躍を期待して在校生が見送ることは、ほとんどの小・中学校で、卒業式の日の恒例行事となっている。

この本を

- *ぼくらが出会った希望のかたち
中日新聞・東京新聞21世紀プロジェクト編著
文芸社 ￥1300
 - *最後の家族
村上 龍 ￥1500
 - *ゆれる親子
幻冬社 緒方 喜子 ￥1600
 - *わからなくなった世界情勢の読み方
丸善株式会社 池上 彰 ￥1600
- 講談社

*千住家の教育白書
千住 文子 ￥1600
時事通信社
日本画家の博・作曲家の明・ヴァイオリニストの真理子の芸術家三兄弟。いったいどうやったらあんなふうになるのだろうか。三人までを芸術家に育てたのはなぜだろうか。子を持つ親だけでなく、この疑問を千住家の親に問うてみたい人は多いはず。

母親、千住文子さんは子育てを語る。「子供が育っていくのは血縁とかよりは、父親の確固とした人間形成への信念と家族の絆です。人にとって何が一番大事なのかは、どんな人間になるかという親の愛なのです」と。

乙川にも春の訪れを予感させるかのよう
に、河川敷の桜が芽をふくらませ始めている。冬の厳しさに耐えたもののみ味わえる喜びを私たちに語る。同じ桜の木なのに、観る人、観る場所によって全く違ったものに感じられるのは、この時節だからなのだろうか。

シオ スア

新学習指導要領の実施にあたり、文部科学省が「学びのすすめ」を発表した。確かな学力の向上に向け、創意工夫を活かした取組が期待されている。

総合的な学習の時間が本格実施され、子供たちにとって、新たな学びが始まる。教師の教育への情熱が一層必要なきが来た。

「あゆみ」を振り返る。一年の自分を振り返る意味は何であろう。過ぎ去りし日を懐かしむためか、自尊心を満たすためか、失敗を繰り返さないためか。一つ一つの出来事に思わず笑みがこぼれたり、胸があつくなったりと。そうか、頑張ったことの証は、明日への糧になるのだ。

すべり台だけがをした子供が、保健室に駆け込んで来た。勢いよくすべって砂場に顔をぶつたようだ。この時期、遊具で遊ぶ子供の姿が少なくなってきた気がする。部屋の中でゲームをする今の子供たち。やはり、子供は何と言っても、外で元気よく遊ぶ姿が一番似合う。